令和６年７月５日

日本大学医学部校舎建替の設計・監理業務に係るプロポーザル

契約概要及び審査概要

《契約概要》

契約件名　　日本大学医学部校舎建替の設計・監理業務
受注者名　　株式会社内藤建築事務所
契約金額　　５９９，５００，０００円（消費税を含む）

《審査概要》

１　審査結果及び受注候補者の選定

本学が，令和６年２月１９日に設置した「日本大学医学部付属板橋病院建替等の設計・監理者選定に係る専門委員会（以下「本委員会」という）」における審査員が評価要領に基づき審査を行い，令和６年６月１２日開催の本委員会において，最も評価点が高い優れた技術提案書等が選定され，見積書の金額が大学の予定価額以下である株式会社内藤建築事務所を受注候補者として選定した。

評価点一覧

参加者番号 業者名・企業体名	No.１ ㈱エイアンドティ建築研究所	No.２ ㈱内藤建築事務所	No.３ ＳＳＣ （共同企業体）
理解度，取組意欲	３．２	４．４	０．８
取組体制，実績，コスト管理体制，設計工程，事業工程	１１．０	１４．０	５．０
課 題 １	１６．０	２２．０	４．０
課 題 ２	１６．０	２０．０	５．０
課 題 ３	１６．０	２０．０	４．０
合　　計	６２．２	８０．４	１８．８

※評価点は審査員の平均（100 点満点）

２　受注者の決定

本委員会で選定した受注候補者について，令和６年７月５日開催の本学理事会にて受注者として決定した。

３　委員構成

※委員長　　廣　田　直　行　（日本大学生産工学部教授・日本建築学会副会長）
※委　員　　竹　内　　徹　（東京工業大学教授・日本建築学会長）
※委　員　　上　野　　武　（千葉大学名誉教授）
※委　員　　岡　本　和　彦　（東洋大学教授）
※委　員　　吉　野　正　章　（千葉県県土整備部）
委　員　　淺　井　万　富　（日本大学常務理事）
委　員　　上　條　由　美　（日本大学理事・昭和大学副理事長）
委　員　　正　田　純　一　（日本大学管財部長）

※日本建築学会推薦者，設計・監理者選定に係る審査員

4　設計・監理者選定に関する経緯

①令和６年４月　５日　プロポーザル実施の公告
②令和６年４月２２日　９者より質問書を受理
③令和６年５月　８日　９者に質問回答書を配布
④令和６年５月１０日　３者より参加表明書を受理
⑤令和６年５月２７日　３者より技術提案書等を受理
⑥令和６年６月　２日　１次審査通過者を３者選定
⑦令和６年６月１２日　３者に２次審査を実施（プレゼンテーション等）
同　　日　受注候補者の選定
⑧令和６年７月　５日　本学理事会にて受注者の決定

5　審査の詳細

①参加要件確認及び１次審査

事務局が，参加表明書等により参加要件を満たしているか確認を行い，技術提案書等と共に本委員会に報告した。

審査員が，事務局からの報告内容をもとに審査し，本委員会が１次審査通過者として選定した。

②２次審査

審査員が，１次審査通過者の技術提案書等，プレゼンテーション及び質疑応答の内容について，評価要領に基づき評価・採点を行った。採点結果に基づき，最も評価点が高い優れた技術提案書等と次順位を，本委員会にて選定した。（講評については別紙参照）

③技術提案書課題

⑴課題１：（配置計画）ロケーションからゾーニングへ

周辺の住環境，当該敷地の高低差や敷地形状，及び既存施設や建替え予定の病　院棟との位置関係に配慮し，医学部１００年の記憶を継承かつ歩車分離でバリアフリーな災害拠点として安全で魅力的なキャンパスの提案を求める。

⑵課題２：（空間構成）包摂的教育と研究を教授する空間構成へ

分棟配置されている本館棟，大学院棟，臨床教育研究棟などの機能の統合を図り，将来の既存施設建替えにも対応可能なフレキシブル性を有しつつ，医学部の理念を反映した新たな教育の場として，学生や研究者間あるいは地域連携等の交流を含むイノベーションコモンズを実現する空間構成の提案を求める。

⑶課題３：（事業継続計画）自然災害から環境対応までの事業継続計画へ

特定機能・災害拠点病院の医学部棟として，安心・安全な耐震性を確保するとともに，高い事業継続性（BCP）を有し，将来的なZeb及びDX化に向けた新たな提案を求める。

以　上

別　紙

講　評

それぞれの提案内容について，大学が提示した要求条件や課題に対する誠実な対応及び事業継続計画（BCP）に対する耐震性への理解等を論点として，審査員の間で議論が交わされた。

審査員の一人が一者を満点と評価したことにより平均点では差がついたものの，５人の審査員中，３対２で評価が分かれた僅差の結果であった。３ブロックに分けて基礎一体型の免震構造の採用にコストをかけた案と，外構を含めた空間整備の充実を重視してコスト配分を図った案を，各審査員がどのように判断したかが評価の差になったと考える。各者のコスト管理能力を審査員がどのように評価するかが懸念されたため，プレゼンテーション時の共通依頼事項として「別途工事と誤記」を示すようにお願いしたが，いずれもその申告はなかった。

本プロポーザルは，公正性・透明性を確保し，提案された設計内容ではなく，優れた設計技術者を選定することを目的としていることに鑑み難しい審査となったが，議論の末，当初の採点結果通りとし，評価点が高い順に技術提案書等を選定した。

今回一位となった企業には，コスト管理を徹底して予算内の実施設計に納めることを切に願うものである。

各案に対する講評は以下のとおりである。

【最も評価点が高い技術提案書等】

参加者番号No.２　株式会社内藤建築事務所

本計画への理解度が高く，大学から示された課題に対して詳細な提案がなされ，プレゼンテーションからも取組への熱意が感じられたことが高評価となった。一方で，大地震後の事業継続性に対する構造計画への理解度について懸念される点や，技術提案書にある表現は概念図であるものの飛躍した部分が多く誠実性や建設コストに対して不安視する意見があった。しかし，これらの点については，今後の大学との協議によって十分に改善及び発展が期待できる能力を有すると判断され，最も優れた技術提案書等として選定した。

【次順位の技術提案書等】

参加者番号No.１　株式会社エイアンドティ建築研究所

免震構造による事業継続性を柱に，明るい教育空間と外断熱や創エネによるZEB Readyの提案は魅力的であると評価された。一方で，大学から提示された課題に対して主要な部分は回答されているものの，詳細な検討過程はなく，プレゼンテーションにおいても補足される部分は少なかった点がマイナス評価となった。

【その他の参加者の技術提案書等】

参加者番号No.３　ＳＳＣ（共同企業体）

重大な要求条件の見落としがあり，本計画への理解度が不十分であった。

医学部付属板橋病院建替等の設計・監理者選定に係る専門委員会　委員長